

<今朝の聖書から>

【二つの種】“まだわからないのか、悟らないのか(8:17)”に始まる、イエス様の叱りの言葉は、宗教的であることを理由にしている、偽善であり、その後如何ほどにも大きくなり得る、パリサイ人の種であり、“この世の知恵”と理解している、それが排他的であり、金銭欲・名誉欲に限りなく成長してゆく可能性を秘めた、孤独な成功者が持っている、ヘロデのパン種のことでした。このような罪の種は、私たちにもあります。

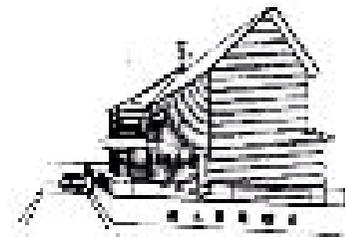
【思い出せないこと】もう一つ先週の箇所でありました。“パンくずは幾つのかごになったか?”という主の質問に至るまでには、ついさっきの出来事は、たとえ弟子達でも、別世界の出来事としてしまい、思い出すことができなかつたのです(8:19)。私たちにも思い出すことはできても経験になっていない、救いの出来事があるのではないのでしょうか。

【主と会話】これらの出来事につづく今朝の箇所に進みましょう。8:23,25で二度、主は“両方の目につばきをつけ、両手を彼に当てて”と癒しをされます。“今回だけはイエス様の力も、一度で癒す程のものではなかつた”のでしょうか。そうではありません。イエス様は信仰者への道をこの人の応答を通して示されました。村は“闇夜を照らす光に待ちこがれているように、暗く疲れ切っていました”。彼をこのような環境から、招きによって引き出すのです。“イエスはこの盲人の手をとって、村の外に連れ出し(8:23)”とあります。そして会話が始まります。“見えますか”と質問されます(8:23)。彼は“人が見えます。木のように見えます。歩いているようです(8:24)”と答えます。応答する力があつたのです。次の問いは同じものでした。“すべてのものが見えだした(8:25)”,と続きます。彼は“主イエスに救われた”ことが、主との話しで分かつたのです。

【主の問い】J.ウェスリの説教に“あと一步でキリスト者”というのがあります、このような応答のことが説教されています。“善意”や“友情や公正”については、異教徒でも知っている(“説教の3”等)そして危険なのは、このような人々が“信仰深い人々”と、時折間違えられる時がある、というのです。“願わくは、私たちすべての者が、あと一步でキリスト者になるまでに成長し、そこに留まらず、全面的なキリスト者となることを体験することができますように(“説教11”)”とあります。実は私たちも“何か見えるか”と質問されたことがあるのです。“悪の悲しみと正しい人への恵”が見えますと答え、また“救い主が見えます”と答えました。“心地よいように誘惑する村や町”の世界に帰ってはいけなさと主は言われます。“せっかく選び贖いだしたのだから”と。

週報

2010年 7月 11日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042